



4団の仲間

ボーイスカウト世田谷第4団

育成会員の皆様へ・スカウトたちへ

第22号 平成22年夏月発行

1. 夏キャンプの報告 各隊のキャンプを報告します



BVS : 7月18日 デーキャンプ 林試の森公園

BVS隊は、デーキャンプとして「海賊の宝を取り戻せ」をテーマに林試の森公園で楽しいゲームや料理を楽しみました。とてもテーマに因んだチェックポイントを回り、スカウトも楽しかったことと思います。昼食のカンガルーもビーバーにとってはちょうど良い野外料理でしたね。また、この日はBS隊も一緒。おいしいスープとそうめんをふるまってくれました。最後は、みんなで水鉄砲大会。大いに盛り上がりました。スカウトたちの楽しそうな笑顔に、暑さや、疲れも飛ぶような一日でした。また、29日はザリガニ釣りで区立総合運動場の奥に行きました。今年は少ししか釣れずスカウト達は残念がってました。見学に来てくれたお友達も仲間になってくれるといいな！

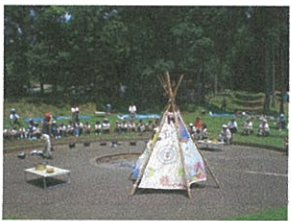


CS隊・BS隊合同キャンプ: 8月14日~17日 三島市「箱根の里」(静岡県)

14日: 東名は心配された渋滞も余りなく予定より早く到着。歓迎してくれたのは湿気が多い霧。ま。暑いより良いか。早速、BS・CSの縦割り班を作り、合同で開村式を行ってそれぞれの活動へ。CSは宿舎に入り落ち着くと、BSのサイトの横の多目的広場へ行き、これまで準備してきたティピー(インディアンのテント)を組み立てる。スカウト達は組毎にティピーに入りご満悦。その後ははし作り。BSは、まずテントの設営。今回はドームテントを使用したので早めに完成。夜はハンバーグカレーを作り、夜は小営火でジャンボリー参加のスカウトから感激の報告がありました。



15日:(霧のち晴れ)この日のメインはハイキングで川遊び。CSは、ゲームをしながら沢に下っていく、一方、BSはサイトから下り、沢登り。あらかじめ決めていた場所で合流し昼食。その間にアユつかみの場所をリーダーが設置。到着したアユを放流し、まずは勇んでCS達が挑戦。敵もさる者、易々とはつかまらず、CSが降参し、次はBSがトライするも素手では掴みきれない。最後は網を用い、BS全体で追い込み漁をしたのですが、それでも半分も取れず、泣く泣く、自然界に返した形になりました。サイトに戻ると団委員長さんが焼き上げた「アユの塩焼き」が待ってました。スカウトは美味しそうにほおぼっていました。この後は、スイカ割り。CSもBSもなかなか決定打無し、最後に、番外編でCS隊長が出場。なんと一振りで見事真つ二つに、後はみんなで種を飛ばしながら美味しく食べました。夜はそれぞれ恒例のナイトハイクでした、



16日:(晴れ)今日のメインは「インディアンの料理」。朝からBSサイトに集まり、まずゲームでくまの料理の食材をゲット! くまとBSと一緒に炊き込みご飯、しかがスープ、うさぎがフルーツポンチとそれぞれ炊事場で料理開始。これにBSリーダーのロックンロールキャベツ、団委員のダッチオープンによる鳥の丸焼きと美味しそうな料理が次々に円形広場に並べられました。皆で順番に味わいましたがどれも良い具合で満足満足でした。夜のインディアンの火祭りは、夏の大三角形が煌めく星空のもと、両隊長のかがり火の入場・点火で始まりました。今回はRSとVSの5人の若手がエールマスターを務め、テンポの良い進行で、ソングもアクションもノリノリ。また各隊・組のスタンプがとてもよく考えられた秀作ぞろい。一時間余りがあつと間に感じられ惜しまれながら終了。その夜、くまは寝袋を持ってBSのAテントにお泊り、月の輪訓練の仕上げを行い、上進準備完了!



17日:(晴れ)最終日。CSは早めに宿舎を出て、最後までゲームなどで楽しむ。BSは、少し撤収作業が遅れ昼前に宿舎に到着。昼食の後に合同で閉村式。お世話になった箱根の里に弥栄を送り、バスに乗り込みました。帰日も順調で予定より早めに世田谷に着いて、たくましくなったスカウト達は迎える家族と対面しました。

★番外編：ジャンボリー見学隊★

15NJへ多くのスカウトが参加し、また近くで開催されましたので、4団としても地区の企画に相乗りする形で約30名の見学隊で大集会の日に朝霧の地を踏みました。ほとんどの参加者が初めて目にする広大なサイトの光景・楽しそうなスカウトの表情に感激。また、派遣スカウトとも涙?の対面の時間も設定されていて、大変充実した時を過ごせました。



<記念碑の前で記念写真>



<派遣スカウト達の笑顔>



<岡田監督がゲスト>



<大集会の様子>

2. 連絡 入団上進式は9月23日弦巻区民センターです。

【編集後記】今年も、15NJのほか、各隊が無事キャンプを終了することが出来ました。準備・支援して頂いたリーダーをはじめ関係者・育成会員の皆様ありがとうございました。限られる紙面では楽しさを語りつくせませんが、来年は、今年いけなかった方は、是非、現場を生で味わって頂きたいと思います。(山本)